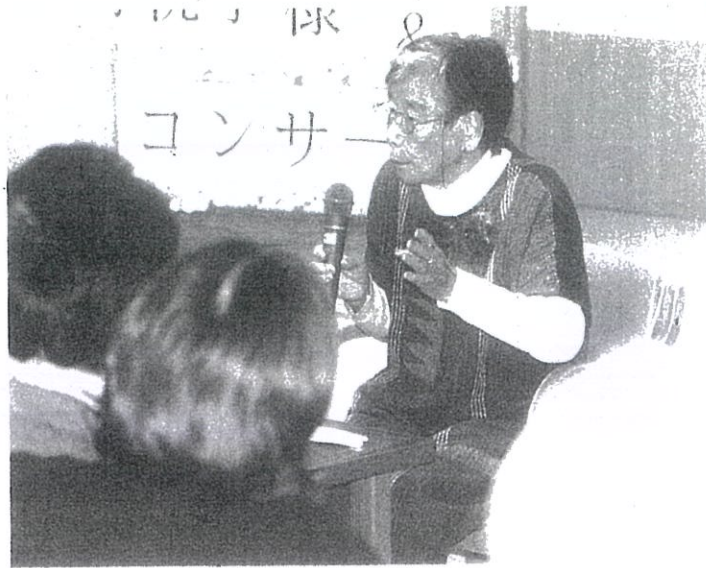


96歳スイマーが経験語る

木村悦子さん(多伎)がデイサービスで

社会福祉法人壽光会が管理する「デイサービスセンター」ケアサポート相生(出雲市今市町)で12日、マスターズ水泳平泳ぎ世界記録保持者の木村悦子さん(96)さんの講演会があった。利用者と家族ら21人が、経験談に耳を傾けた。

出雲の「ケアサポート相生」



穏やかな口調で語りかける木村悦子さん＝12日、出雲市今市町のケアサポート相生

木村さんは同市多伎町の出身。今市高等女学校(現・出雲高等学校)で水泳部に所属し、県代表に選ばれた経験もあるが、結婚した18歳以降は水泳からは離れていた。子どもが自立した60歳から、スイミングクラブに所属し本格的に水泳を再開し、90歳で計七つの日本新記録を出している。いったん離れたが、5年後の2024年には平泳ぎ3種目で世界新記録を樹立している。その功績が称えられ、今年3月の出雲市市制施行20周年で出雲市特別功労者表彰者に選ばれている。

講演で木村さんは、女学校卒業後に、家族が暮らす広島に移り住み、原爆症で苦しむ人に対して何もできなかったことや、病弱の夫に代わり一家を支えるためさまざまな仕事に携わった経験を紹介。そこで逆境を乗り

越える根性が身についてたと話した。また、日本記録を出した90歳の時に満足して、約5年間競技から離れたことにも言及。「家にいてもつまらない。いつか世界記録を狙いたい」と感じ、95歳で再び水泳に挑戦した当時をうれしそうに振り返った。

最後に、世界記録が達成できたのは周りの人たちの力が7割、自身の体力や精神力が3割と感謝を述べると、100歳になってもチャレンジしたいと締めくくった。

その後、恒例のオペラコンサートもあり、利用者家族の大石萌海(めぐみ)さん(25)がソプラノ独唱を披露すると、参加者らは大いに盛り上がった。参加者を代表し、杉谷節子さん(90)は、「世界に羽ばたく木村さんの姿を見て、私も今を満足することなく無理のない範囲でできることを続けたい」と話した。

島根日日新聞

令和7年11月15日